

## 香川県の未来は、殺処分される動物にかかっている？！

大手前丸亀高等学校 2年 森安 寧々

本論文では、現在、香川県で起こっている問題を二つ取り上げたい。

一つ目は、高齢化・過疎化との向き合い方である。香川県の人口は、1981年に100万人を越え、1999年の103万人をピークに現在に至るまで減少している。2025年には90万人を切り、2040年には80万人を下回る見通しである。そのような中、高齢者は、64歳以下は減少、65歳以上は増加傾向にあり、現在、香川県人口の三分の一が65歳以上の高齢者である。これらの人口減少と高齢化についての問題は、誰しも聞いたことがあるだろう。

2010年に行われた国勢調査で、香川県内の65歳以上の高齢者の一人暮らし世帯は約3万8000世帯で、全世帯の約1割となっている。この結果は、過去30年間で4倍近い数字である。

一人暮らしの高齢者の日常生活において、63%が「心配事がある」、30.7%が「頼れる人がいない」と答え、近所付き合いの程度が一人暮らしの高齢者の約64%が「付き合いがほとんどない」や「挨拶をする程度」と答えている。そして、会話の頻度(電話・Eメールを含む)が男性の一人暮らしの29%中18%と22%中13%が、「2,3日に一回」と答えている。「高齢者の経済生活に関する意識調査(平成23年)」によると、高齢者の5人に1人が「困ったときに誰にも頼ることができない」と答えている。

そして、日本の年間死者数の約125万人のうち孤独死は約3万人で、100人に1人の割合である。

二つ目は、動物の殺処分についてである。動物の殺処分環境省による平成26年度の犬・猫の殺処分数は、犬の21,593匹と猫の79,745匹を合わせた、101,388匹である。平成27年度に香川県内に収容された犬の2,714匹のうち殺処分されたのは、2,203匹で、全国平均は34.2%であるのに対し、香川県は81.2%で、殺処分率が全国一位である。

これらの問題や調査結果を知って、どう検討していくべきだろうか。これらの事実から、香川県は高齢者や動物にとっても住みやすい県だとは言えない。香川県のUターン・Iターン率を上げて、現在、香川県に住む人・動物全てが幸せに住める県を目指さなくてはならない。

そのために、高齢者と動物と一緒に暮らし、老人ホームや病院にいる高齢者のために、動物と触れ合える機会を作れば良い。これを、アニマルセラピーという。アニマルセラピーの効果は、人を笑顔にするだけでなく、血圧や脈拍が安定する、病気の治癒効果がある、延命効果がある、寝たきりの高齢者が40%から3%に改善する、認知症を予防する、疎外感をなくす、生活にメリハリがつきリズムが生まれる、やる気が出る、高齢者同士の会話が増える、安心感が得られるなど、様々な効果がある。健康については、犬との散歩により、身体的刺激を得られて、運動量の増加から、快眠でき、体の具合がよくなり、精神的

充実も得られることで、健康的な気分になり、病気による欠勤・通院減少につながる。動物を飼っていない人より、年間 20%前後病院の通院回数が減ったというデータがある。ドイツでは 7500 億円、オーストラリアでは 3000 億円の医療費が削減されている。心臓疾患の患者に対する調査では、ペットを飼っている人は 1 年後に 53 人中 3 人死亡、飼っていない人は 1 年後に 39 人中 11 人死亡という、死亡率にも大きく影響を及ぼす。

アニマルセラピーは、他にも、動物介在療法という、リハビリが必要な患者の手伝いを犬がするというもので、例えば、ボールを投げるというリハビリも投げたら、犬が取りに行ってくれるのである。あと、動物介在教育というものもあり、小学校等に動物が訪問し、動物のふれあい方や命の大切さを学べる。この教育を受けると、子供の非行を防ぐことが出来る。現在、アニマルセラピーを行う CAPP という協会は、動物のしつけを行うインストラクターがボランティアでしているため少なく、活動出来る動物の基準が高いため普及しにくく、殺処分される動物を救いきれない。基準を下げすぎる危険性はあるが、今よりも下げればいいし、インストラクターにお金を払い雇えば、もっとインストラクターも増えるだろう。

アニマルセラピーの導入に必要な犬・猫の育成、運営コストを差し引いても総医療費に 1350 億円削減でき、19 万頭以上の動物の需要がある。殺処分、事故で死ぬ犬・猫は 15 万頭であるため、動物たちを救うことが出来る。今までなら殺処分されていた動物たちが、一人暮らしをしている高齢者の話し相手、遊び相手となり、日々の生活の癒しとなって、散歩をする時など、引きこもりがちの高齢者が外出する機会が増え、高齢者は人と話す機会も増える。このような、高齢者と動物の関係を築く家を増やすために、高齢者も動物も安心して生活できる環境が必要である。つまり、その環境の条件を満たす県は、子供たちにとっても安全な県であろう。香川県が動物を飼いやすい環境を作れば、高齢者は生き生きとし、動物の殺処分は減り、子供たちにとっても安全な県になるだろう。しかし、動物も苦手な人もいる。そのような人たちのことも考慮した県にしていくことも大切である。

一人暮らしの高齢者がペットを飼うにあたり、定期的な通院などがある場合に、その間のペットの世話はどうするのか、ということだ。そこで、筆者が考えるのは、飼い主の不在時にペットの面倒をみていてくれるサービスを提供することと、一緒に連れて行きたい場合に、その施設にペットを預かってくれる場所を提供することだ。あと、公園のような犬が走り回れる施設も必要だ。香川県には、廃校になって使われなくなった学校がある。例えば、旧三豊市立財田中小学校は現在、トンネル工事で働く人たちの事務所・休憩所となっていて、その工事が終われば、空き地となる。このように、空き地となってしまう、学校跡地に高齢者とペットが遊べて、触れ合える公園を作れば、子供たちも遊ぶ場所が増えるため、公園などの、子供たちの遊び場が無い地域に人口が過密したときに問題となる「道路族」と呼ばれる、新興住宅街の袋小路になった路上で子供たちが遊び、騒音問題などで、近隣住民とトラブルになる親子も減るだろう。動物が苦手な人にとっても、公園でない場所で動物が遊ばれるより、学校のような囲いが厳重なところに公園があれば、苦手

な人も安心して、生活できるだろう。

このように、最初に取り上げた二つの問題は、一見、異なっているように思われるが、これらのサービス・施設提供により、二つの問題だけでなく、あらゆる問題を解決できるだけでなく、魅力的な県になる。捨てられて殺処分されそうになった動物たちが、高齢者を救えたら、どんなに、素敵で幸せだろう。

香川県に充実した保育所・幼稚園、老人ホームに動物がやってきて、笑顔を届け、動物も預かれる老人ホームも作り、誰もが遊べる公共施設をたくさん作り、動物を飼いやすく、子育ても全面的に支援でき、安全な県を作る。そうすれば、香川県にたくさんの人々が集まる。人々が集まるところには、企業が参入してくる。人々は豊かで、幸せに生活している。そんな、県に住みたいくはないだろうか。

---

[参考文献]

<https://peco-japan.com>

「PECO」

<https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2-date/statistics/dog-cat.html>

「環境省自然環境局 総務課 動物愛護管理室」

[sankei.com](http://sankei.com)

「産経ニュース」

<https://www.jiji.com>

「JIJI.COM」

[animal-t.or.jp](http://animal-t.or.jp)

「内閣府認証 NPO 法人日本アニマルセラピー協会」

<http://mimamori-kagawa.jp/blog/2014/04/post.html>

「いきいき未来創生計画」

<http://www.soumu.go.jp/johotsuintokei/whitepaper/ja/h22/html/md133100.html>

「平成 22 年版 情報通信白書」

<https://www.minnanokaigo.com/news/kaigogaku/no8>

「みんなの介護」

<https://www.jaha.or.jp/had/capp>

「公益社団法人 日本動物病院協会」